

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

十勝管内 芽室町立上美生小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間や社会科において、北海道やふるさとの歴史及び文化について調べる学習を位置付けるとともに、外部講師を招聘した調理体験等を通して、アイヌの人々の生活と自分たちの生活との違いについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

アイヌ文化に関する調査活動や体験活動を通して、アイヌの人たちの歴史や文化について理解するとともに、学校独自の食農教育や他教科との関連を図り、ふるさとの未来について具体的に考え、発信することにより、ふるさとに対する誇りや愛着を高める。

取組の様子

(1) 課題の設定

帯広カムイトウポポ保存会の方を講師に招聘した調理体験、帯広百年記念館や啓発資料「ピラサ」を活用した体験的な学習を通して、児童一人一人が「アイヌ語」「生活様式」「食」などのアイヌ文化について、探究的な課題を設定しました。



【講師との調理の様子】

(2) 情報の収集

芽室町社会科副読本、アイヌの人たちの歴史・文化等に関する啓発資料、アイヌ文化振興・研究推進機構や帯広百年記念館の資料、1人1台端末の活用及び外部講師の講話をもとに情報を収集しました。



【1人1台端末活用の様子】

(3) 整理・分析

1人1台端末を活用し、収集した情報を整理し、地域の開拓前の様子やアイヌの人たちとの交流の歴史について考察するとともに、アイヌの人たちの生活と自分たちの生活を比較することにより、アイヌ文化への理解を深めました。



【遠隔授業での発表の様子】

(4) まとめ・表現

1人1台端末を活用し、学習内容を新聞形式にまとめ、各学級で交流するとともに、遠隔授業で他校の児童にアイヌ文化について情報発信することにより、さらに自分の考えを深め、アイヌの人たちの食について考えることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・個別の課題設定において、児童が自分たちの生活とアイヌ文化を関連付けて考えられるよう工夫するとともに、情報収集において、多様な資料から必要な情報を選んだり、講師の方に質問する内容を考える場面を位置付けたりしました。
- ・1人1台端末を活用し、新聞形式にまとめる際、共通する課題についての理解を深めたり、新たな気付きを捉えられるよう発表、交流したりするほか、遠隔授業で発表する機会を位置付けました。

実践の振り返り

- ・探究の学習過程に、講師を招聘した調理体験等の取組を位置付けたことにより、アイヌの文化に対する興味・関心が高まるとともに、ふるさとに対する誇りや愛着を育むことができました。
- ・学校独自の食農教育との関連や、遠隔授業による情報発信を行うことにより、地域の実態に応じた指導計画の工夫・改善につながり、ふるさとに対する愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。